



多賀谷時代まつりで勝どき上げる
稲葉・下妻市長(左)
橋本・あわら市長(右)



下妻市議会を中心とする視察団の
あわら市訪問
(多賀谷左近三経公墓所で)

姉妹都市提携までの経緯

平成25年4月22日、多賀谷左近三経公の遺徳を顕彰するとともに墓所の護持・整備を図ることを目的に、「多賀谷左近三経公奉賛会」が設立されました。

平成26年4月13日に下妻市の多賀谷城跡公園で行われた「多賀谷時代まつり」を奉賛会のメンバーが訪問。橋本達也

あわら市長も甲冑に身を包み、武者大名行列に参加しました。

平成26年6月1日に行われた下妻市制施行60周年記念式典に、橋本達也あわら市長が参列。翌年の平成27年には両市議会を中心とする訪問団が相互に訪問するなど、市民・行政ともに交流を進めてきました。

多賀谷三経とは

多賀谷三経は、天正6年(1578年)、多賀谷重経の嫡男として生まれました。

幼名は虎千代。元服の際、烏帽子親である石田三成の「三」の字を得て、以後、三経と名乗ります。

天正17年(1589年)、三経は下妻から島城(茨城県結城郡八千代町)に移り、翌18年(1590年)には新たに太田城(八千代町)を築き、父・重経から分け与えられた岡田郡、豊田郡などの地を治めます。

慶長5年(1600年)、三経は仕えていた徳川家康の次男、結城秀康の先陣として、現在の栃木県大田原市に出陣します。結城秀康は、関ヶ原合戦の際、宇都宮におり、上杉景勝の南下を抑える重要な役割を担っていました。秀康の家臣であった三経は、上杉氏に対する最前線に配置されました。

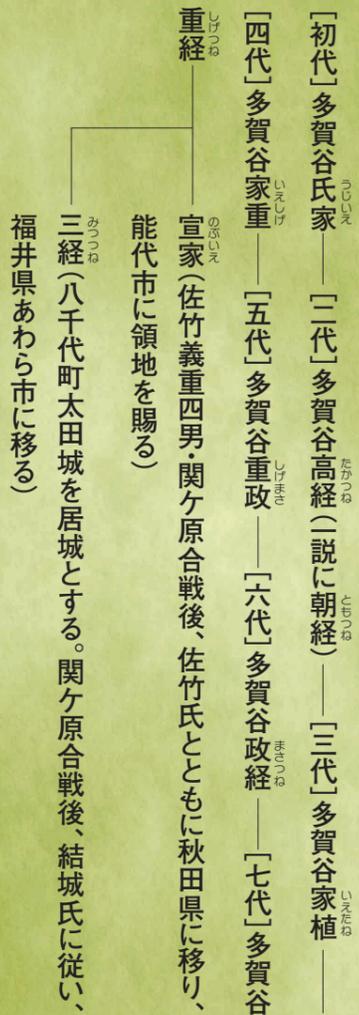
関ヶ原合戦後、三経は、結城秀康が現在の福井県福井市に転封した際にこれに従い、現在のあわら市周辺に3万2千石の領地を得ました。山十楽に館を構え、刀鍛冶、弓師、町人等を集め、大きなため池などを造り、村の中は多くの人でにぎわいました。治世の期間は6年余りの短い期間でしたが、現在も「柿原の殿様」として地元の人に親しまれています。

慶長12年(1607年)、彼の地で亡くなり、三経の亡骸はあわら市の専教寺に葬られ、そのお墓は現在、多賀谷左近三経公奉賛会のメンバーにより維持管理されています。



多賀谷左近三経公墓所(あわら市柿原地区)

下妻多賀谷氏系図



調印後に握手を交わす橋本達也・あわら市長と稲葉本治・下妻市長
(左から、坪田・あわら市議会議長、橋本・あわら市長、稲葉・下妻市長、飯塚・下妻市議会議長) = 下妻市役所本庁舎

調印式

下妻市役所本庁舎で11月16日、多賀谷左近三経公を機縁として、福井県あわら市と下妻市との間に姉妹都市提携および災害時における相互応援に関する協定の調印を行いました。

調印式では、橋本達也あわら市長、稲葉本治下妻市長が盟約文に署名押印し、同席した坪田正武あわら市議会議長、飯塚薫下妻市議会議長が立会人代表として署名しました。

調印後のあいさつで、稲葉市長は「日本海側と太平洋側、それぞれの地域特性を生かし、両市の豊かな自然、歴史、文化、伝統を大切に継承するとともに、さまざまな組織・団体・個人がさらに交流を深め、その交流によって築かれた信頼・絆を大切にしながら、相互の友好と繁栄をより一層推進していきたい」と下妻市初の姉妹都市提携に喜びを表すと、橋本市長は「400年の時を超えて、市民交流を背景に両市間に新たな歴史が刻まれたことは大変意義深い。両市の希望に満ちた輝かしい未来に向け、あらゆる分野の交流を円り、豊かで個性的な地域社会を築き上げていきたい」と今後の交流に期待を寄せました。



姉妹都市提携記念品
九丸弓張提灯
(下妻市からあわら市へ)



姉妹都市提携記念品：ガラス工芸品
(あわら市から下妻市へ)

下妻市初の姉妹都市提携 福井県あわら市と下妻市の新たな歴史を刻む

福井県あわら市と下妻市は11月16日、姉妹都市提携と災害時における相互応援に関する協定に調印しました。

戦国時代末期に下妻の地を治めていた戦国武将・多賀谷重経の嫡男として生まれた多賀谷三経が両市にゆかりがあり、毎年4月に多賀谷城跡公園で開かれる「多賀谷時代まつり」での市民交流が契機となりました。

今後、両市の相互の友好と親善を深めるとともに、市民間の文化、産業など幅広い分野で交流を推進していきます。今月号では、あわら市の概要や姉妹都市提携までの経緯などを紹介します。